

ボラネット多摩

第7回 大学生ボランティア活動報告会&イベント ～被災地と多摩地域の架け橋～

「あの日から、10年。」

参加団体 東日本きずなプロジェクト

主催団体 多摩地区の大学と地域による
ネットワーク（ボラネット多摩）

2021年2月14日（日）

報告



今年はオンライン開催！

本センターが参画する「多摩地区の大学と地域によるネットワーク（ボラネット多摩）」では、日頃から東京都の多摩地域にある大学や地域行政、社会福祉協議会等が協働し、「大学生のボランティア活動」を通じた被災地の復興支援や多摩地域の防災・減災に取り組んでいます。

今年度も同団体が主催し、2月14日（日）に『第7回 大学生ボランティア活動報告会&イベント～被災地と多摩地域の架け橋～』を開催しました。今年度は、新型コロナウィルスの影響によりオンライン（YouTube）での開催となりましたが、被災地支援や地域防災・減災活動に取り組む5大学11団体が制作した動画の配信や東日本大震災の被災者の方をお招きしたトークセッションを通して、多くの方々と3.11から10年間の歩みを振り返り、現在地や未来について考えることができました。

本学からは、「東日本きずなプロジェクト（学内登録団体）」の学生が参加し、トークセッションに出演したり、制作動画を配信したりしました。

多摩地区の大学と地域によるネットワーク（ボラネット多摩）

同団体（通称：ボラネット多摩）は、本学ボランティアセンター、中央大学ボランティアセンター、明星大学ボランティアセンター、実践女子大学キャリア生活支援課、法政大学多摩ボランティアセンター、日野市企画部地域協働課、日野市ボランティア・センター（日野市社会福祉協議会）が協働し、大学生のボランティア活動を通じた多摩地区の活性化のため、大学や地域の枠を超えて連携しながら活動を行っています。

第1部 10:00～11:00

トークセッション「私たちの10年間」

出演者

■被災地支援に取り組む大学生

- ・大川 恭平さん（東京都立大学 都市環境科学研究科 修士2年）
所属団体：東日本きずなプロジェクト
- ・竹内 沙綺さん（実践女子大学 生活科学部 3年）
所属団体：東日本大震災岩手県宮古市支援プロジェクト
- ・保崎 翔太さん（中央大学 経済学部 2年）
所属団体：チームくまもと

■ゲスト

- ・佐藤 敏郎さん（スマートサプライビジョン理事 兼 特別講師）

1963年、宮城県石巻市生まれ。宮城教育大学卒業後、中学校の国語科教諭として宮城県内の中学校に勤務し、2015年3月退職。

東日本大震災当時は、宮城県女川第一中学校（現：女川中学校）に勤務。震災後の2011年5月、生徒たちの想いを五七五に込める俳句づくりの授業を行い、テレビ、新聞、書籍等で紹介される。

震災で当時大川小学校6年の次女を亡くす。2013年末に「小さな命の意味を考える会」を立ち上げ、現在は、全国の学校、地方自治体、企業、団体等で講演活動を行う。2016年「16歳の語り部（ポプラ社）」を刊行、「平成29年度児童福祉文化賞推薦作品」を受賞。

小さな命の意味を考える会代表、「NPOカタリバ」アドバイザーの他、ラジオのパーソナリティーとしても活動している。

■ファシリテーター

- ・齋藤 元気

（都立大ボランティアセンター ボランティアコーディネーター）

第1部では、「私たちの10年間」と題したトークセッションを実施し、YouTubeでのLIVE配信に初めて挑戦しました。

東日本大震災からまもなく10年になります。その間に発災した災害の被災地も含めて、各大学・団体では、これまでに様々な支援を行ってきました。一方で、学生自体は概ね4年で卒業してしまいます。

今回はトークセッションを通して、出演する学生がこの10年間で何を想い、考えて活動を行ってきたのか、そして各団体には何が受け継がれてきたのか、10年経った被災地が求めるものとは何か、そのようなことを大学生の視点と被災者の視点から考えました。

まず初めに、自己紹介やそれぞれの活動についてお話ししたいたい後、「きっかけ」として大学生には、なぜ現在の活動に

参加しようと思ったのか、佐藤さんには、東日本大震災当時の被災状況などについてお聞きしました。

さらにそこから話を深めていくと、各団体では「被災地の変化」や「支援活動の終わり」について考える機会が日常的にあることが分かりました。すでに団体としての活動を収束させることが決定している「チームくまもと（中央大）」の保崎さんからいただいた「団体として活動の区切りをつけたり、新たな活動に移ったりすることは考えたか」という質問には、東日本「きずなプロジェクト（都立大）」の大川さんから「最初は現地の漁師のお手伝いなどもしていたが、ずっと支援してもらっているだけでは申し訳ないという漁師の話を聞いて、“何かをしてあげるだけではないやり方”もあるのではないかと考え、現地を見る機会などを創り、伝える活動も続けてきた」、「東日本大震災岩手県宮古市支援プロジェクト（実践女子大）」の竹内さんからは「団体として継続することを考えているが、他団体の話を聞いてそこを意識するようになった」という話がありました。被災者であり、ご自身も語り部や防災を含む様々なプロジェクトに取り組んできた佐藤さんからは「必要なものを必要な分だけというのが大事だと思う。支援は押し付けるものではないからこそ難しいが、どんな支援が必要かと聞かれても、意外と自分たちは目の前のことややっているのでピンとこないことが多い。だからこそ、継続して来てくれている方に、被災地にはまだこんな支援が必要なんじゃないかと思うことがあったら言ってくださいと伝えている」という話がありました。被災者自身が気づかないことがあるからこそ、支援者の視点も重要であり、それを共有できるようなコミュニケーションが必要なのだと思います。大学生が被災地に通い、現地の方々とつながっているからこそできることもあるのだと感じました。

3.11からの10年間を振り返るにはとても短い時間でしたが、様々な視点から被災地の変化や支援の在り方・終わり方などについて考えることができました。

第2部 13:00~15:00

いま 動画配信 「あの場所は現在、わたしたちは現在」

配信動画

・きずな商店～オンライン出張～

制作：東日本きずなプロジェクト（都立大）

・活動を終えるチームのぶっちゃけ

制作：チーム女川（中央大）

・女子大生が食レポで伝える 宮古の魅力

制作：東日本大震災岩手県宮古市支援プロジェクト（実践女子大）

・2016熊本地震～現地の今～

制作：チームくまもと（中央大）

・10年の活動の変遷を振り返る

制作：はまぎくのつぼみ（中央大）

・オンラインでつながる真備

制作：ふらっと真備（中央大）

・防災王決定戦！～次の防災王はキミだ！～

制作：チーム防災（中央大）

・我々の活動地、気仙沼の魅力

制作：面瀬学習支援（中央大）

・気仙沼でつながった2年間

制作：チーム気仙沼でつながら騎士（法政大）

・田野畠村での10年を振り返る

制作：虹色の薔薇の会（明星大）

しました。本学から参加した東日本きずなプロジェクトは、毎年都立大の大学祭である「みやこ祭」で出店し、東北の名産品などを販売している「きずな商店」をオンラインで再現しています。その他、団体の収束についてメンバーそれぞれの想いを語り合う動画や現地の名産品を食レポで伝える動画、防災クイズや合唱を取り入れた動画などがあり、それぞれの活動場所や活動内容が色濃く出ていました。動画を制作すること自体とても大変なことなのですが、その制作過程を通して団体の活動について再確認したり、改めてメンバーの想いを知ったりすることができたようです。

今回のイベントは、全てオンラインでの開催になったため視聴者の方々とのやり取りも少なく、その反応を伺うことがあまりできませんでした。しかし、会場に訪れる必要がなくなった分、これまで声の届かなかった方々にも、学生の取組や想いを発信することができました。今後も10年を節目にしないような取組を続けていければと思います。

～学生からの質問～

第1部の後には、ボラネット多摩の学生と佐藤敏郎さんが参加し、お互いに質問することができる時間を設けました。
そこでトークの一部を紹介します。

被災者であり語り部の
佐藤敏郎さんが
答えました！

質問1

これまで様々な学生と関わってきたと思うのですが、大学生だからこそできることやその限界についてお聞きしたいです。

↓
学生はとてもアクティブ。この一年についても現地に行けない分Zoomを使うなど、やり方も発展・工夫している。10年経ったからできなくなるということはないのではないか。人が入れ替わるのはあるが、その分新しい人も入ってくるし、アイデアを出し合っていけば乗り越えられる。

いろんな壁にぶつかって若い力は伸びる。意外と復興10年でどんなボランティアが必要か、どのように向き合っていけばいいのかは専門家にも分からない。むしろアクティブに、いろんな交流することによって学生が道を創るぐらいでもいいと思う。

質問2

防災を呼び掛けること自体はSNSなどの普及により簡単になったと思うのですが、コロナ禍では特に熱意が伝わりにくい気がします。どのように呼びかけばいいのでしょうか。

↓
防災はイベントだけではダメで、習慣にならないといけない。いつでもどこでもだれにでもが大事だが、手軽になればなるほどマンネリ化にもつながる。いざという時はみんな何もできない。判断を早くできるようにするしかない。みんなの活動がすぐ何かにつながるわけではないが、それが材料や種になることが大事。



ボラネット多摩
YouTubeチャンネル

アーカイブを公開中！

